第 1 回東郷町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会議事録〔要旨〕

【開催日時】

平成 30 年 10 月 4 日（木）

開会 午後 3 時

閉会 午後 4 時 30 分

【開催場所】

役場 3 階 政策審議会室

【出席委員：11 名】

佐野 治 （静岡英和学院大学 人間社会学部 教授）

松宮 朝 （愛知県立大学 教育福祉学部 准教授）

亀井 洋太郎（東名古屋東郷町医師会 代表）

猿渡 伸司（愛知県尾張福祉相談センター 次長兼地域福祉課長）

近藤 正弘（東郷町民生委員児童委員協議会 会長）

住田 敦子（尾張東部成年後見センター センター長）

笹野 真智子（社会福祉法人東郷ひなた 理事長）

山下 律子（NPO 法人地域の応援団えがお 代表）

寺澤 秀治（東郷町老人クラブ連合会 会長）

井口 真治（東郷町子ども会育成会連絡協議会 会長）

岡澤 京子（公募委員）

【欠席委員：4 名】

土山 典子（瀬戸保健所 健康支援課長）

水野 逸馬（東郷町社会福祉協議会 会長）

杉本 久（東郷町障がい者団体連絡会 会長）

近藤 隆博（東郷町駐在員会 会長）

【傍聴者：1 名】

【議題】

(1) 地域福祉計画・地域福祉活動計画について（資料 1）

(2) 策定スケジュールについて（資料 2）

(3) アンケート調査について（資料 3）

【会議の概要】

- 1 委嘱状交付
- 2 町長あいさつ
- 3 委員自己紹介

- 4 委員長の選出及び副委員長の指名について
- 5 議題
- 6 意見交換「地域における問題と課題」
- 7 その他

1 委嘱状交付

2 町長あいさつ

(井俣町長)

本日はご多忙の中、「第1回東郷町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会」にお集まりいただき、ありがとうございます。皆様方におかれましては、日頃から本町行政に大変深いご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

東郷町では、これまでも高齢者福祉計画や障がい福祉ビジョン、子ども子育て支援事業計画等、諸々の行政計画を策定し、それらに沿って活動してまいりました。そのような中、地域においては福祉施策による地域住民への支援を進めてまいりました。

皆様方もご存知のとおり、近年、新しい住民の方が増え地域の活力が増している反面、地域でのつながりが希薄化していることも認めざるをえません。高齢の方や障がいをお持ちの方、子育てをされている方は、それぞれ色々な課題を持っていらっしゃいます。まず個人で自立する努力をすることは大切ですが、地域の中での支え合い、行政が公助としてどのような支援をしていくのかが重要になります。包括的、多面的、複合的な支援が大変重要になってくると思います。

地域福祉計画を策定するに当たり、地域の課題を他人事ではなく我が事であるように考えることを「我が事、丸ごと」と言います。私も5月22日に町長に就任させていただいてから、職員に対し、役場に来られる全ての住民の皆様を自分の親兄弟、親族だと思い対応していただきたいとお願いをしています。まさに、その考え方を活かした計画、方針にしていただければと思います。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、この委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。素晴らしい計画ができることを祈念し、本町の福祉行政の発展のため、色々なご意見を忌憚なく発信していただきたいと思います。何卒、よろしくお願いをいたします。

3 委員自己紹介

※各委員自己紹介

4 委員長選出及び副委員長の指名について

委員の互選により、委員長に佐野治委員を選出し、副委員長に近藤正弘委員を指名した。

(委員長)

委員長を拝命しました佐野と申します。今回の東郷町地域福祉計画・地域福祉活動計画は第1期ですが、既に国の計画は15、6年前から始まっています。国も、この計画には力が入っており、次第に意義が強くなり、自治体に対してもかなり多くのことを求めてきています。

先ほど、町長がおっしゃられたように、地域のつながりが希薄化していることは非常に大きな問題です。地域の絆を回復し、様々な問題を早期に発見し、関係機関につなぎ、支援することが地域福祉の課題となっています。大災害における救助活動の6、7割は隣近所による助け合いだと言われています。自衛隊や消防が到着する前に、町内会や自治会の中の、さらに狭い向こう3軒、両隣という範囲で救出活動がされています。

また、児童虐待が深刻化する中で、子どもの泣き声が聞こえるのもその範囲であり、高齢者の徘徊によって保護されるのもその範囲です。地域は、命を支え、問題を早期に発見し解決する場でもあります。地域の中で住民同士のつながりを強め、様々な福祉問題を早期に発見して解決することが、地域福祉計画の命題です。地域の課題を他人事ではなく「我が事」のように捉えて方針を打ち出し、計画を進行させいくという大きな流れになっています。

地域福祉計画と地域福祉活動計画は、行政計画と社会福祉協議会の活動が両輪になり進めていきます。この二つの計画を同時並行に進めながら、計画という設計図を絵に描いた餅にせず、実行可能なものにしていければと思います。皆様の忌憚のないご意見、ご協力、ご助言、ご指摘、アイデアを色々と承り、最終的には東郷町モデルという形で全国に発信できるような計画になるよう尽力したいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

5 議題

(1) 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定について

(事務局)

<資料1に基づき説明>

(2) 策定スケジュールについて

(事務局)

<資料2に基づき説明>

(3) アンケート調査について

(委員長)

「議題(3)アンケート調査について」ですが、アンケート調査で住民の方に色々と答えていただくということは、地域福祉への参加という意味付けを持っています。単なる意識調査とは違い、それ自体が参加になっているということでご了解

いただければと思います。

(事務局)

<資料3に基づき説明>

6 意見交換「地域における問題と課題」

(委員長)

ありがとうございました。只今、事務局から「地域福祉計画・地域福祉活動計画について」「策定スケジュールについて」「アンケート調査について」の説明がありましたが、これらを踏まえ「地域の問題と課題」について意見交換を行いたいと思います。東郷町の地域社会の問題や課題について、それぞれのお立場からご意見をいただき、計画の参考にさせていただきたいと考えております。お一人2、3分程度でご意見をいただければと思います。先ほどの説明に対しての質問でも構いません。

(委員)

私は、東郷町の住民ではないため、他から見た立場になりますが、今後検討が必要ではないかと思う点が3点ありました。

まず1点目は、アンケート調査について、委員長がおっしゃったように、地域福祉計画のアンケート調査はアンケートに参加する時点で地域福祉に参加しているという意味合いがあり、とても重要であるということです。

そのため、ただのアンケート調査ではないということを知るようにしなければなりません。好事例を聞く質問等、アンケートの内容は非常にいいと思います。今後の計画策定に活かされる項目がもっと入っていてもいいのではないかと思います。

また、東郷町には6の小学校区がありますが、あなたの地域がどの範囲かという質問で小学校区と答える人はなかなかいません。ざっくりと聞くのではなく、計画策定に結び付く範囲にする方がいいのではないのでしょうか。

2点目は、アンケート調査は、実際に調査をする目的以外にも、この計画について宣伝するメディアの役割を果たしているという点です。町や社協として、このような計画を東郷町でやっている、このような方針でやろうとしているということを、調査票を配布する2000人の町民に伝え啓発することができます。その点も踏まえ、鏡文は丁寧に案をつくる方がいいと思います。また、郵送に同封する資料等があってもいいのではないかと思います。

3点目は、大型商業施設についてです。東郷町の人口が増えるそうですが、先ほど町長もおっしゃられたとおり、人口が増えることで活気が出る反面、地域のつながりが希薄になってしまいます。大型商業施設は、通常、地域のつながりとは関係ないようにみえますが、長久手イオンやイケアでは、地域と積極的に連携し、福祉活動等のイベントに取り組まれています。既に箱は決まっていると思いますが、地域福祉計画

の策定に合わせ、積極的に大型商業施設と連携し、新しい住民を取り込むような視点があってもいいのではないかと思います。

(委員長)

重要なお意見をありがとうございます。単なる意識調査ではなく、色々な目的をもった調査であり、計画に反映させていきたいと思います。

(委員)

最近、豊明市の乗り合い送迎サービスや長久手市の定額乗合タクシーの記事が新聞に載っていました。これらは、このような計画で起ち上がった事業なのでしょうか。それとも、全く別に起ち上がった事業なのでしょうか。

(事務局)

計画を元に起ち上がった事業ではないと聞いています。豊明市は、行政主導ではなく、アイシン精機とスギ薬局が組んで始めた民間主導の事業だそうです。

(委員)

高齢者は危ないので免許を返納しましょうとよく聞きますが、日頃、診療に携わっている中で「東郷町で免許を返納してどうやって暮らしていくのか」と言われる患者さんが多いです。バスも1時間に1本程度です。タクシー業界の法律もあり難しいかもしれませんが、乗り合いタクシーが認められると、皆さん利用されるのではないのでしょうか。医療機関だけではなく、役場やいこまい館等へ行くときにも利用できるというのではないかと思います。このような取組をしていただくと、福祉的な施策として目立つ上に、東郷町に住みたいと思っていただけるのではないかと思います。

私は、この委員会とは別にもう一つ福祉関係の委員を務めています。そちらでも同じようなことが言えるのですが、住民が障がいや障がい者についての知識を得られるようなことをやっていかねばならないと思います。先ほどのご意見にもありましたが、大型商業施設でのイベント等をどんどん行ってほしいと思います。

この計画は国が主導でやっていますが、やはり東郷町としての色を付けられるようなものをしていくと、広く知られると思います。他の自治体と同じことをするだけでなく、何か特徴的なものができればと思います。

(委員長)

今、委員が言われたことこそが地域福祉だと思います。行政主導だけでなく、民間の力も含め、モチベーションを高めて住民主導で行うということが、この計画のど真ん中にあることだと思います。

(委員)

今のお話にもありましたが、私も交通の便が大きなポイントだと思います。高齢者が増えており、障がい者、障がい児に対する交通の便についても、しっかりと盛り込んだ計画にさせていただきたいと思います。子どもがいても、他の町へ出ていってしまうことが多く、独居の高齢者が増えています。独居高齢者の買い物や通院への対応が重要です。

それと併せて、認知症への対応として、資産や相続について対応できるシステムが必要ではないかと思っています。

(委員長)

独居高齢者対策は、この計画においてもメインになっていくと思います。行政や社協も含めての大きな課題です。権利擁護に関しては、後ほど尾張東部成年後見センターの住田委員からもご意見をいただければと思います。

(委員)

民生委員は、高齢者や子ども、子どもを育てる親の相談相手となり、問題等を解決につなげる活動をしています。半年くらい前に、民生委員がどのような考え方で活動をしているのかなど、民生委員の立場からのアンケート調査を実施し、今その取りまとめを行っているところです。より開かれた民生委員となり、今後も皆様にどんどん活動をやっていただけるのではないかと考えております。

民生委員の全体行事については、比較的上手く行えています。しかし、「地域で支え合う」という言葉は非常にきれいですが、実際には難しく、地域の中でどうすればお互いに上手く助け合うことができるのかを常に考えています。私自身、近所の方を全員知っているかと言われても、あまり知りません。まして、他の市町から東郷町に来られた方は、地域になかなか知り合いができないと思います。そのような中で「地域で支え合う環境づくり」は、とても難しい課題です。

しかし一方で、必要なことでもあると思います。各地域の民生委員がお互いに手を取り合い、自分たちの地域の問題点を吸い上げ、住民同士が協力し、学校等の関係機関に相談をしながら、できるだけ安心していつまでも住み続けたいと思える地域づくりに取り組んでいきたいと思っています。

(委員長)

民生委員の方の意識調査も参考にさせていただき、計画に反映させることができればと思います。

(委員)

3点、申し上げます。

1点目、先ほど、アンケート調査が宣伝になるという話がありました。今後、小学校区ごとのミーティングや座談会等、地域住民の方の声を拾う機会をつくるとお考え

であれば、「皆様の意見を直接聞く機会を持ちたい」という旨の文書をアンケートと一緒に配布してはどうでしょうか。そこに参加できない方も多いかもかもしれませんが、自分たちの意見を聞く場をつくっているという認識を持ってもらうことが大事ではないかと思えます。

2点目は、委員がされているような地域の支え合い活動がボトムアップ型で本当に地域にとって必要なものであれば、この機会に何らか施策に反映できるものがあるかもしれません。それと併せて、活動をされている団体に直接話を聞く機会があればと思えます。

3点目は、アンケート調査の項目に権利擁護の質問があまりないように思いました。ぜひ、権利擁護に関する質問項目を設けていただきたいと思います。成年後見制度もそうですが、日常的な金銭管理で困っているかどうかは、社協の日常生活自立支援事業にも基礎資料として反映できると思えます。

また、現在、成年後見制度の促進計画を6市町で一緒に策定しており、今年度中にできる予定です。それを地域福祉計画の中にも、章立てとしてそのまま入れていただきたいと思います。

(委員長)

日常生活自立支援事業の社協の絡みで、成年後見の分野で連動・連携すると思えますので、一度、考えていただければと思えます。

(委員)

社会福祉法人東郷ひなたは小規模ですが、小学校1年生から社会に出る人たちまでを支援しています。夏休みに中学生のボランティアを受け入れており、ボランティア終了後に感想を書いてもらっています。その内容をみると、ボランティアをする前は、障がい者に対して、乱暴、楽しめない、自分の意見を言えない、会話ができないというイメージを持っているようでした。中学校内に特別支援学級のある生徒もそのような感想を書いており、障がい者への理解が本当に進んでいないと感じ、とても残念に思いました。「障がい者の方たちがにこにこ笑っていて驚いた」という感想もありました。

アンケート調査の質問項目の中にボランティアの欄がありますが、実際に事業所を運営する中で知る限り、ボランティアを受け入れているところは、ほとんどありません。社協を通して、体験授業としてボランティアを受け入れる話はあるのでしょうか。東郷町自体にボランティア活動がなかなか育っていないのではないかと思いました。その辺りが啓発されるような内容があればと思えます。

また、「地域丸ごと」についてですが、東郷町に限ったことではないと思えますが、障がいのある子どもたちが、地域の中で生活する場がないと感じます。学齢期の子どもは、学校へ行きサービス事業所を利用して家に帰る、働いている人は、事業所へ行き家に帰って過ごすという方がほとんどです。家族としか外出できないのではなく、

ボランティアの方等と地域のお祭りに一緒に参加して楽しむことができるようになるのが、私の理想です。一人一人の特性もあるので、誰もができることではないと思いますが、そうなればいいなと思います。

障がいを持っていても活躍できる場はあると思います。本人たちがそのような環境を整えることはとても難しいので、環境を整えていただき、そこへ出て行って、そこから理解を始めてもらえるようになればと思います。

(委員長)

障がい者福祉とは連動しないといけません。ぜひ、一体的にできるようにしたいと思います。障がい者福祉計画は、いわゆる法律で定められた法定計画だと思いますが、それ以外の住民独自の計画や法定外のサービスも活発に開発し、一緒にやっ払いこうというのが地域福祉計画だと思います。

(委員)

東郷町で、この委員会とは別に、高齢者の地域包括ケアということで地域支え合い協議体の委員をしています。委員のご意見にもありましたように、高齢者の方が免許を返納した後はどう足を確保するかが、いつも課題として挙がり、解決策を模索していますが難しいです。

支え合い協議体という名前に「支え合い」という言葉があり、障がい者の方や認知症の方等、支援が必要な人を支える人を育てようというイメージが強いと思います。私は、認知症の方の支援としてデイサービスもしていますが、認知症になったからといって支援される側に立ちたくないと思っている方は非常に多いです。皆さん、支援する側、ボランティアをしたいと思っています。認知症になったからといって何もできなくなるわけではなく、役に立ちたい、世の中のためになることがしたいと思っています。また、迷惑をかけているという意識もあります。一方的な支えられ側ではなく、障がいがあっても認知症になっても病気になっても、支える側に回れるような形を整えていきたいと常々思っています。

認知症の初期の方に対して、地域の理解はあまりありません。例えば、地域の囲碁のサークルに通っていた方に認知症の症状が出て、自分が指した手を忘れてしまい連続で指してしまったりすると、あの人は変な人だから来てもらっては困るということになってしまいがちです。本当は、少しの支えがあれば、楽しみにしている囲碁ができたり、卓球ができたり、スポーツクラブに行けたりする方が全部排除されてしまい、行先がデイサービスになってしまっているのが現状です。デイサービスに来ている方が以前楽しんでいたことにどうすれば戻れるのかが課題です。デイサービスの中で支援をしながら、元の生け花教室に通っている方もいます。

委員もおっしゃられたようにイメージだけで怖い、大変な人と思ってしまいがちですが、普通に接すれば、それほど大変な人たちではありません。ほんの少し注意してもらえればと思います。例えば、持ち物がなくなると騒いでしまう場合もありま

すが、「カバンはここに置いていたよ」と一言声をかけるだけで普通に通える場合もあります。今は排除の方向へ行くことが多いですが、周りの人たちが、いずれ自分も認知症になる、いずれ自分も障がい者になるという「我が事」の意識を持ってくれると、理解が少しずつ進むのではないかと思います。

地域福祉計画が、やっとな郷町で策定されます。私が町会議員をしていたときに、東郷町の地域福祉計画をつくってくださいと意見を出したことがあったのですが、「努力義務なのでつくらなくていい」というようなこと言われました。やっとな、このような計画をつくれる時代になったと感慨深いです。せっかくつくるのであれば、地域の中でもっと施策が推進されればと思います。

地域の範囲としては、6つの小学校区でワークショップを行うのが、スケジュール的には限界だと思います。しかし、本来は17ある地区ごとにしていただきたいです。お互いに顔見知りであり、地区ごとに課題が全然違います。それを地区が3つ、4つ集まった小学校区単位にしてしまうと、課題がぼんやりしてしまうのではないかと残念に思います。

(委員長)

やはり地域性があるので、私も17地区でワークショップができればと思います。

印象に残ったのがサービスの受け手が、サービスを提供する側になるということです。国からも、単にサービスを受けるだけではなく、その方たちが世の中を支援できる可能性も持っているという方向性で策定しなさいというガイドラインで出ています。そのような視点で計画をつくっていかねばならないと思います。

(委員)

老人クラブは15地域でそれぞれ活動をしています。各地域によって問題は違いますが、全体的な問題は加入率、組織率が低下していることです。加入者は以前の約3分の1になってしまいました。各地区とも63歳くらいで老人クラブに加入される方が多いのですが、そのタイミングを逃すと後からでは加入しづらいと思います。しかし、昔と違い今は63歳では働いている方が多く、そのため加入者が減少していると考えられます。

また、地区によって違いますが、加入して2、3年で世話人をしなければなりません。その方たちが各会員に色々なものを配布したり、シニアハウスでの活動をするため、世話人をやりたくない、世話されるのはいいけれど世話はしたくない、まだまだそんな年代ではないという人が多いように思います。

老人クラブという名前もどうかと思います。私たちの地区では、中身は同じですがシニアクラブに改名しました。今の時代、老人扱いをしてはいけないと思います。

老人クラブは生きがいと地域貢献を目的に活動しています。しかし、積極的に活動をしている人は、ほとんど同じ顔触れであり、会員にはなっている、なかなか集まりに顔を出さない人もいます。その辺りもどうしていけばいいのか考えていかねばな

りません。

今は、どのような組織でも同じような問題を抱えているのではないのでしょうか。老人クラブ以外にも「さわやかさん」(JA助け合い組織「さわやか東郷」)が各地区の公民館で色々な活動を起ち上げており、取組は進んでいると思います。しかし、実際、そこへ行く人は同じ顔ぶれです。活動している人は、どんどん活動していますし、引きこもっている人はなかなか出てきません。それが問題ではないかと思います。

(委員長)

社会福祉団体の事務局は、社協にあるのでしょうか。団体活動の活性化については、社協に色々と考えていただくこともあるのではないかと思います。

(委員)

活動体系の基本目標に、「支え合う地域づくり」「安心できる住宅」等があり、おそらく全てに取り組むのだとは思いますが、他の市町で行政計画の委員になった際に、目標や活動計画を立てて色々活動しても、最終的には宙ぶらりんの状態で終わるパターンが多くありました。基本目標を1つだけにして、的を絞って取り組んだ方がいいのではないのでしょうか。3年計画や6年計画ならいいのですが、1、2年の計画期間なら1つだけを集中的に取り組む方が、色々な対策ができるのではないかと思います。

「住みよいまちづくり」と町長もよく言われますが、実際に子どもが住みよいまちにするため、東郷町では子どもの医療費が無料です。しかし、東郷町では街灯や歩道の整備が進んでおらず、不審者が出た、歩行者が自転車に跳ねられた、車に当たりそうになったという話を聞きます。これらを無くそうと思えば、道路環境の整備が必要です。ようやく、通学路をメンテナンスしたという話がありました。しかし、その実現までには何年もかかっています。車がなくても住めるまちをつくるのが、一番大事なことはないのでしょうか。将来的には、私自身を含め、皆様も年を取ってきたときに、電車に乗ったり、歩いていけるようにするため、まず道路環境を良くすることが大事だと思います。これらを進めていくためには、この会議のメンバーだけでなく、他の課にもお願いをしなければならないと感じました。

今、70歳、80歳近くまで働く方がいらっしゃるため、子ども会の役員をしてくださる方が少なくなっています。男女平等が進み、共働きの他、女性の課長や社長という方もいるため、なかなか役員を引き受けてもらえないのが現状です。子どもたちが子ども会活動に出たくても出られない状態になっています。東郷町は人口も子どもの数も増えていますが、子ども会の人数は、入りたくない人が増えているため減少しています。子ども会に入るメリットがないということです。入るだけの価値観が必要だと思います。

また、宣伝の方法も大事だと思います。紙に印刷をするのもお金がかかります。私はネットを全く使いませんが、私の娘たちはネットで情報を仕入れるので、そのよう

なやり方が若者の受けがいいのではないかと思います。選挙等の情報も、娘たちはネットで調べていました。そのような方法を活用すると、いい情報を提供できるのではないかと思います。

(委員長)

今の時代、ネットは重要な情報媒体の一つです。啓発に力を入れてもらいたと思います。

(委員)

2,000人のアンケート調査は、どのような人たちを対象に、どう選ぶのですか。

(事務局)

対象は18歳以上で無作為で抽出します。

(委員)

アンケートがよく来ますが面倒に思ってしまうがちで、何ページも続くアンケートは、いい加減に書いているのが実情だと思います。本当に生の声がどこまで聞けるかと、思うことがよくあります。

私は東郷町に来て40年経ちました。以前は、自治会を中心として横のつながりが活発でした。しかし、今は横のつながりが希薄になっているように思います。老人クラブも、子ども会も加入者が少なく、皆さん利己的になっているような感じがします。

先日、組長会がありました。40年間、毎年各組の皆さんと色々な話をしているのですが、ご立派な夫婦や、まだこの地域に住んでいるにも関わらず組から外れた方もいらっしゃいます。非常にショックでした。東郷町というよりは、国や地域がどうかなっているのではないかと思います。

自治会に数年前まであった婦人会が今はありません。あの時代は、「婦人会をなくしてはいけない、防災等の際になくしてはいけない」と親分肌の女性がいらっしゃいました。今、私たちは女性部として餅つき等で自治会を支える裏方をしています。ただ、そこにも問題があり、私たちの下の世代から女性部に入る人が少なくなっています。私たちが悪いのか、何が悪いのかは分かりませんが先細りです。女性部の人たちも老人クラブに入り、だんだん年を取っています。どうすればよいのだろうと考えています。

17地区のワークショップの話ですが、町長と話し合いをすると案内があっても、本当に関心がある人はほんの少しだと思います。しかし、口コミには絶対真実があります。「行こう」と声をかけると、たくさん人が集まると思います。文章による案内だけでは、まず人は動きません。私自身もそうです。何かいい方法を考えていければと思います。

(委員長)

昔は、青年団もありました。婦人会は無くなったのですね。

(委員)

婦人会はずいぶん前に無くなりましたが、細々とやっている地区では女性会があります。

(委員長)

東郷町では自主防災組織等がどの程度できているか分かりませんが、自主防災組織も自治会単位でつくったり、つくらなかつたりするため、このような機会に地区組織を活性化できればと思いました。

今、ご意見をいただいた中で、事務局から回答できるものはありましたでしょうか。

(事務局)

乗り合いタクシーの関係ですが、町長が5月に当選され、マニフェストで呼び出しタクシーを公約に挙げられていました。今、実施している「巡回くん」がどう変わるかですが、具体的に呼び出しタクシーの実施に向けた検討が進められています。高齢者の方の足の確保について、皆様が気にされているのは、ひしひしと伝わってきております。すぐにできるものではありませんが、少し時間がかかってもそのような形で実施できればと思います。どの地区になるのか、全地区になるのか、まだお答えはできませんが、検討を進めていきたいと思っています。

(委員長)

今、皆様からご意見をいただきましたが、この会議全体について何かご意見はありますか。

※意見なし

(委員長)

私は、他に委員長を務めている会がありますが、今日はとてもいいご意見をいただき、東郷町の方は色々と深く「我が事」として考えていらっしゃると感じました。皆様のご意見がいい計画をつくる下支えになりますので、今後とも忌憚のないご意見をいただければと思います。

7 その他（事務局からの連絡事項）

次回は、平成30年11月29日（木）午後3時からを予定。

閉 会